

ANBA-SAMA infomation

アンバ様



大杉様 神輿

アンバ様案内マップ

鹿沼市重要無形文化財



お囃子太鼓屋台

板荷地区農村地域活性化プラン推進会議
交流の促進とPR部会

●問い合わせ先：板荷コミュニティセンター ☎ 0289 - 64 - 8101



神輿の前の神事



役人(やくびと)



神社を出る神輿

板荷アンバ様の神輿の渡御と悪魔払い (毎年3月第1土・日曜日)

■前日の準備(金曜日)

●宵囃子

日枝神社にて大世話人(祭典責任者)、当番年行司(鍵番)、世話人で準備をして、夜に大世話人、年行司、世話人、囃子方、役人(やくびと)等で日枝神社と各神社を千度万度(せんどーまんどー)して最後に神輿の廻りを「アンバ様大杉大明神 悪魔払って ヨイのヨイのヨイ」と声をかけながらまわります。

■祭り当日(土曜日ー上板荷、日曜日ー下板荷)

●日枝神社での神事

朝7時 日枝神社において神主ともに、神輿を先頭に金幣、猿田彦、大天狗、小天狗、獅子、当番年行司、お神酒持ち、お供持ち、お礼持ちの順に並び玉串を奉納の後、日枝神社、各神社に千度万度を行い神輿の廻りを「アンバ様大杉大明神 悪魔払って ヨイのヨイのヨイ」とまわり出発します。出発のときには、囃子方は門囃(かどぼやし)演奏します。囃子方は、オートバイとリヤカーを改造して作られた屋台に乗って、神輿の後を練り歩き大杉囃子で盛り上げます。

●神輿の渡御と悪魔払い

厄払いをする家では、旗を持った子供たちも加わり、猿田彦の先導で神輿を庭の中央正面に入れ、大天狗、小天狗が庭から勢いよく家の中に飛び込み、「アンバ様大杉大明神 悪魔払って ヨイのヨイのヨイ」と大声で悪魔を払い、同時に獅子は玄関から入り、天狗の払った悪魔を食べてしまう。そして、当家の氏神様に向かって千度万度を3回行い、当家の主人公にお神酒、お供、お礼を渡し主人公は金一封、奉納品を贈り厄払いが終わります。それが済むと赤飯や煮物やお菓子などが振舞われ、子供たちにも配られ、大世話人の拍子木の音を合図に次の家へ向かいます。2日間で板荷全域をまわる早春の伝統の祭です。

- 大世話人・・・祭典責任者(世襲制)
- 年行司(鍵番)・・・地区ごとに宮内組、鍛冶屋組、泉内組、桑が沢組、堀の内組に分かれている。(当番年行司は、まわり番)
- 役人・・・金幣、猿田彦、大天狗、小天狗などのこと
- 囃子方・・・関白流囃子保存会
- 世話人・・・地区内の案内係、交通係、進行係
- 千度万度・・・神社などにあつい信仰をあらわすためにたくさんお参りすること。



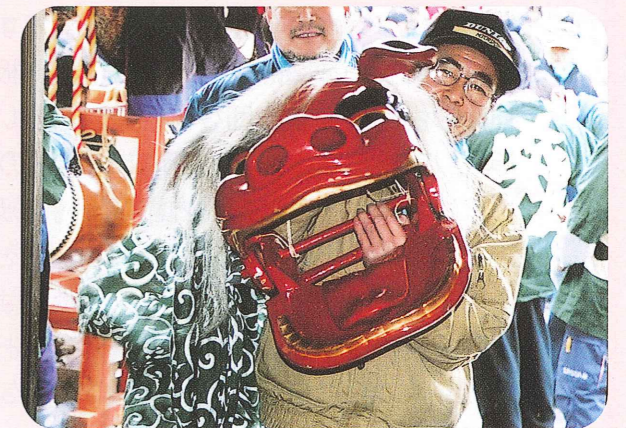
大天狗・小天狗の悪魔払い



猿田彦のそば食い



初孫の悪魔払い



悪魔を食う獅子

板荷アンバ様神輿巡回コース



→ 土曜日…上板荷
→ 日曜日…下板荷

板荷のアンバ様

アンバ様は、毎年3月の第1土・日曜日にアンバ様の鎮座した神輿が板荷地域全戸を回り、悪病除け、家内安全を祈願する行事です。

神殿形式の神輿は大杉神社として、板荷の日枝（ひえ）神社境内に安置してあります。神輿の由緒書や座布団などに書かれているものによると、安政年間(1854年～1859年)がそれ以前から今日まで、150年以上もの間受け継がれてきたことがわかります。

アンバ様は、常陸国河内郡桜川村阿波（あば）に祀（まつ）られた大杉神社の祭神、大物主神（おおものぬしのかみ）の分霊を、江戸時代にお迎えし祀ったものです。

「阿波」から「アンバ様」へと誰とはなしに呼びあがめられ、身近な神となりました。アンバ様信仰は、板荷の人々に今なお深く浸透しています。そして旧来の形態を損なうことなく、板荷全地域で行われる貴重な行事です。

【鹿沼市重要無形文化財（平成2年3月31日）】